

北海道小樽水産高等学校  
船員ガイダンスを開催

現役の船員が、生徒たちに船員の魅力を伝える

12月15日、北海道小樽水産高等学校で、全日本海員組合北海道地方支部の執行部と職場委員を講師として、船員ガイダンスを実施し、海洋漁業科1年生33人が参加した。

この船員ガイダンスは、現役の船員や船員職業に携わった人が、海運業や水産業、船員職業について教えることで、生徒たちが2年生に進級する際に、船員養成コース（漁業コース）を選択し、将来、船員職業を選択することへの一助となるよう開催している。

ガイダンスでは、はじめに山崎秀和北海道地方支部長があいさつした後、池上幸太北海道地方支部副支部長が「海運・水産業・船種の紹介、船員になる方法」について講話を行った。

続いて、津軽海峡フェリー株式会社の山崎圭一職場委員が「航海士について」の講話を、昭和日タンマリタイム株式会社の加藤典嗣職場委員が「機関士について」の講話を行い、それぞれの体験談を語った後、生徒たちからの質問を受け付けた。

質問の内容

▽船内居室の冷暖房設備について▽外航船に乗り組むための英語力について▽内航船の定期航路と不定期航路について▽航海士と機関士の給料について一などで、執行部と職場委員が丁寧に説明した。

学校側から「船員職業に興味を持って入学する生徒は減少傾向にある。この学校で今後も船員を志す生徒を育てていくためにも、この船員ガイダンスを通して、多くの生徒達に船員の魅力を伝えていきたい」と話があり、全日本海員組合の継続的な船員ガイダンスの協力を求められ、船員ガイダンスを終了した。

「海員だより」